

池上百竹亭コレクション展示室

コレクションの始まり

会期／令和四年 四月二十一日(木)～七月十日(日)



[右上]正岡子規《「菜の花」図》

[右中央]《手鑑『鬼玉集』》

[左上]下村為山《子規居士像》、
高濱虚子《「子規ゆかや〜」》

[下]正岡子規《子規居士臨模古絵題詠
（「藤娘ほか」図）》1902年

池上百竹亭コレクションは、文人・池上喜作（号・百竹亭、一八九〇ー一九七八）が蒐集した近代文芸資料を主とする二二点からなるコレクションです。松本市の商家に生まれた喜作は、国の重要美術品に指定された《手鑑『鬼玉集』》を家蔵するような環境の元で、芸術を尊ぶ心を養っていきました。旧制松本中学校時代、正岡子規の俳句革新運動を知り、心惹かれるようになりまます。松本が、俳句革新運動の県内拠点となっていた時期でもありました。家業にいそむ傍ら歌作、句作を続けまますが、子規の《子規居士臨

模古絵題詠（「藤娘ほか」図）》を入手したことをきっかけに、コレクションが始まります。その中核をなすものは子規とその門人たちの作品ですが、文芸関係にとどまらず、美術、工芸の分野にも広がりを見せていきます。このたびの展示では、当館のリニューアルオープンにあたり、コレクションを代表する子規の作品が一堂に会します。喜作が生涯を通して追求めた子規文学を垣間見る機会とし、あわせて《手鑑『鬼玉集』》をご覧いただきます。